

マルーラ村のアラム語の昔話 —— シリアとドイツ、ふたつの昔話集

西 口 拓 子

はじめに

シリア出身のラフィク・シャミ (Rafik Schami, 1946-) による短編集『マルーラ村の昔話』¹ は、1987年に発表された。これは『夜の語り部』² (1989年) によって作家として広く知られるようになる以前、ドイツでの創作活動の比較的初期に編まれた昔話集である。

『マルーラ村の昔話』のまえがきでシャミは、おとぎ話のように幸運な出会いがあったことを語っている。³ 1984年の秋にニュルンベルクの書店で行った朗読会⁴の聴衆のなかにアラム語の研究者がいたのだ。

アラム語は、キリストが話した言葉として知られているが、現在ではシリアのマルーラ村など一部でかろうじて生き残っている。⁵ シャミ自身はダマスカスで育ったが、両親がこの村の出身で、夏はたびたびそこで過ごしていたのである。⁶

¹ Schami, Rafik: Märchen aus Malula. München (dtv) 17. Aufl. 2009. Erstveröffentlichung: Malula. Märchen und Märchenhaftes aus meinem Dorf. Kiel (Neuer Malik Verlag) 1987. 本稿では2009年のdtv版を参照した。邦訳は、シャミ『マルーラの村の物語』泉千穂子訳 西村書店 1996年。

² Schami, Rafik: Erzähler der Nacht. Weinheim, Basel (Beltz & Gelberg) 1989. 邦訳は、シャミ『夜の語り部』松永美徳訳 西村書店 1996年。

³ Schami 2009, S.9.

⁴ シャミは、1980年から精力的に朗読会を行っていた。

⁵ Sofer, Zwi: Aramäer. In: Enzyklopädie des Märchens. Hrsg. v. Kurt Ranke u. a. Berlin 1975ff., Bd.1. S.718-722.

⁶ シャミの生い立ちに関しては、拙論を参照。西口拓子「ふるさとシリアを描き続ける作家 ラフィク・シャミ」『専修大学人文科学研究月報 シリア・ヨルダン総合研究

この男性を朗読会に導いたのは、おそらくシャミの短編集『さすらうネズミの最後の言葉』(1984年)所収の「マルーラの竜」⁷という話だろう。一方シャミはこの男性を通して、ドイツではアラム語が古くから研究対象となっていたこと、それからマルーラ村の昔話集が刊行されていることを知るのである。

Zeni Scho'ra という女性が二人の東洋学者(オリエントリスト)にマルーラの話の初めて語った日から116年後に、故郷の村から三千キロも離れたドイツで、その話を見つけたのだ。なんという幸運だろう。もしも誰かが15年前にそう予言したとしても、私はそれをひどい冗談だと思ったことだろう。⁸

「15年前」というのは、シャミが政治的な理由からシリアを去る直前にあたる。英語圏もしくはフランス語圏への進学(亡命)を希望していた彼にとって、片言しかできない言葉の国ドイツに行くことは全くの想定外だったのである。

こうして運命的に出会った昔話集を基にして、『マルーラ村の昔話』が生まれたとシャミはいう。これがフィクションである可能性は排除できないが、『マルーラ村の昔話』の話は昔話らしさを備えており、さらに、まえがきには、原典は今から「116年前に語られたもの」で、200頁を超えるものであることなど、具体的な数字がいくつも挙げられている。そして巻尾には「出典」(Quelle)として次の書物が挙げられている。

G. Bergsträsser (Hrsg.): Neuaramäische Märchen und andere Texte aus Ma'lula. Leipzig 1915, Abhandlungen für die Kunde des

特集号』第245号 専修大学人文科学研究所 2010年 69-90頁。

⁷ Der Drache von Malula. In: Das letzte Wort der Wanderratte. Von Rafik Schami. München (dtv) 11. Aufl. 2009. 邦訳は、シャミ『モモはなぜJ・Rにほれたのか』池上純一訳 西村書店 1997年 73-96頁。

⁸ Schami 2009, S.11f.

Morgenlandes, Band XIII, Nr.2 und 3.⁹

タイトルを訳せば、『マルーラ村の現代アラム語の昔話、その他の話』（以下、『アラム語の昔話』と略す）となる。これは、ドイツでグリム兄弟が昔話集の初版を刊行してからおよそ一世紀後、日本では『遠野物語』（1910年）が編まれた頃に、Gotthelf Bergsträßer (1886-1933)¹⁰ という東洋学者が、実際にライプツィヒのブロックハウス社から出版した本である。¹¹ 第一巻がアラム語を書き取ったテキストで、第二巻がそのドイツ語訳である。本文はそれぞれ 94 頁、110 頁であり、それにまえがきを加えると、200 頁を超えるというシャミの指摘に合致する。

本書は、アラム語の貴重な資料であり、専ら言語学的な関心を集めてきた。昔話としては、El-Shamy の『アラブ世界の話型カタログ』¹² で考察対象とされているほかは、ほとんど注目を集めていないようだ。しかし『アラム語の昔話』は昔話の資料としても意義深いものである。そして、これを基としたシャミの作品は、昔話を現代に生かす一つの可能性を示してくれるのである。

1. 19 世紀後半の東洋学者のフィールドワーク

現在テキストとして残されているアラブの昔話集で、口頭伝承から採られたものは、ほとんどが 19 世紀の後半以降、特に方言への関心から、ヨーロッパの東洋学者が集めたものである。¹³ これには、「アラブ世界では伝統的な

⁹ Schami 2009, S.201. 泉千穂子訳の日本語版では、この出典は省略されている。

¹⁰ セム語族の諸語の研究に携わり、ベルリン、カリーニングラード、ウロツワフ（ブレスラウ）、ハイデルベルク、ミュンヘンなどで教授を務めた。

¹¹ Bergsträßer Gotthelf (Hrsg.): Neuaramäische Märchen und andere Texte aus Malūla. Hauptsächlich aus der Sammlung E. Prym's und A. Socin's. Leipzig (Brockhaus) 1915. Schriftenreihe: Abhandlungen für die Kunde des Morgenlandes 13,2 und 13,3.

¹² El-Shamy, Hasan M.: Types of the Folktale in the Arab World: A Demographically Oriented Tale-Type Index. Bloomington (Indiana University Press) 2004. アラブの昔話をアールネ／トンプソンの『昔話の型』に分類したもの。

¹³ Spies, Otto: Arabisch-islamische Erzählstoffe. In: Enzyklopädie des Märchens.

コーラン諸学を重んじる一方で民話を含めた庶民文化に対する学問的な関心が低く、¹⁴ 採集が熱心に行われてこなかったという事情もある。¹⁵

『アラム語の昔話』もアラム語への関心から集められたもので、Eugen Prym (1843-1913)¹⁶、Albert Socin (1844-1899)¹⁷、Hans Stumme (1864-1936)、それから前述の Bergsträßer の四人の東洋学者によるフィールドワークに基づいている。

なかでも、Prym と Socin が 1869 年にシリアのマルーラ村で実施した調査がこの本の中核をなしている。それはシャミがこの昔話集に出会う「116 年前に」あたる。

マルーラ村は、ダマスカスの北方、レバノン国境に近いアンチ・レバノン山脈中にあり、アラム語が残るキリスト教徒の村として知られている。今日では学校教育はアラビア語で行われているものの、日常生活ではアラム語が話されている。¹⁸ (写真 1)

セム語族に属するアラム語は、キリスト教・ユダヤ教の言語で、中近東の主要言語であったが、7 世紀のイスラム出現によりアラビア語に放逐され、ついには死滅したと考えられていた。しかし 18 世紀には、Carsten Niebuhr (1733-1815)¹⁹ らの旅行者によりアラム語が生きているとの情報が伝えられた。²⁰ そして 1831 年に、アメリカ人の Eli Smith (1801-1857) らが現代

Hrsg. v. Kurt Ranke u. a. Berlin 1975ff., Bd.1. S.685-718, hier S.687.

¹⁴ 西尾哲夫『アラビアンナイト——文明のはざまに生まれた物語』岩波新書 2007 年 37 頁。

¹⁵ その背景に関しては以下に詳しい。新妻仁一「シリアの民話を読む——伝統文化をめぐる諸潮流——」『亜細亜大学国際関係紀要』3 巻 2 号 亜細亜大学国際関係学会 1994 年 97-120 頁。特に 100-103 頁。

¹⁶ Prym は、アラビア諸語、アラム語の専門家で、ボン大学で教授を務めた。

¹⁷ Socin は、バーゼルで生まれ、バーゼル、ゲッティンゲン、ライプツィヒ大学などで学び、セム語学の教授を務めた。

¹⁸ マルーラ村については以下に詳しい。川又一英「アラム語を話す村・マールーラ」『季刊民族学』23 巻 3 号 千里文化財団 1999 年 39-51 頁。

¹⁹ Niebuhr, Carsten: Beschreibung von Arabien. Kopenhagen 1772 他。

²⁰ 高階美行「現代アラム語概観 (二)：現代中部アラム語・現代マダ語・現代西アラム語」『大阪外国語大学学報』72 号 大阪外国語大学 1986 年 11 月 67-101 頁。特に 86 頁。



写真1 マルーラ村 (2009年12月25日筆者撮影)

東アラム語を話すネストリウス派キリスト教徒との接触に成功すると、²¹ 意欲的な研究が始められた。1861年春には、Jules Ferrette (1828-1904) がマルーラ村の現代西アラム語を発見し、東洋学者の関心を集めた。彼の研究を詳細に検討した Theodor Nöldeke (1836-1930) は、1868年にアラム語の文法書を刊行している。²² 1896-97年には、フランスのシリア調査団がマルーラ村で現地調査を行い、その成果をM.D.J. Parisotが1898年に出版し、アラム語の文法・語彙の全容を明らかにした。²³ このように19世紀後半には、アメリカ、ドイツ、フランスによる積極的な現地調査が行われており、

²¹ 高階美行「現代アラム語概観(一): 現代東アラム語」『大阪外国語大学学报』71号 大阪外国語大学 1986年3月 55-85頁。特に56-7頁。

²² Nöldeke, Theodor: *Grammatik der neusyrischen Sprache am Urmia-See und in Kurdistan*. Leipzig 1869. Nachdruck, Hildesheim 1974. セム語泰斗のNöldekeは、ドイツでイスラム学の礎を築いた学者である。自身はアラム語の生の音を聞いたわけではないという。

²³ 高階 1986 (72号) 88頁。Parisot, M.D.J.: *Le dialecte de Malula. Grammaire, vocabulaire et textes*. *Journal Asiatique*, 9e Série, tome XI. S.239-312, 440-519, tome XII, S.124-176.

Prym と Socin の調査も、こうした潮流の中に位置づけられる。

この二人は、「完全に死に絶えつつある西アラム語を書き留めるため」²⁴、1868年に調査旅行に向かう。マルーラ村での調査に先立って、1869年3月に二人はまずダマスカスで聞き書きを行った。トゥール・アブディン地方²⁵出身のヤコブ派キリスト教徒の男性が、三か月前からダマスカスに住んでおり、彼にアラム語の昔話を語ってもらうことに成功したのだった。この時の成果は、『トゥール・アブディンの現代アラム語の方言』（以下『トゥール・アブディン』と略す）²⁶としてグッティンゲンの出版社から1881年に出版された。『アラム語の昔話』と同様に、第一巻がアラム語を書き取ったテキストで、第二巻がそのドイツ語訳である。

『トゥール・アブディン』のまえがきには、語り手や調査方法などに関する情報が記されている。まず、語り手は *Dschâno* という名の、読み書きはできないが記憶力の優れた男性であり、謝礼は、彼が働いていた炭坑などでの日当よりも多くを支払ったという。彼はアラビア語も話すことができたため、意思疎通はそれによったという。²⁷

昔話は、まず彼にアラム語で語ってもらい、それを二人が同時にローマ字を用いて書き取ったという。片方がそれを読み上げ、確認作業を行い、差異があればそこを *Dschâno* に繰り返してもらった。未知の語彙や語形は、説明してもらい、アラビア語かドイツ語でメモをしておいたという。7月の Socin の入院期間を除けば、全てを二人で同時に書き取り、²⁸ 出来る限りの厳密さを心がけたのであった。

1869年9月に、Prym と Socin はマルーラ村に移動し、さらに6週間の調査を行った。二人は、断崖の上に聳える聖セルジウス修道院（写真2と3）に宿泊し、²⁹ *Zêni* という名の女性からおおよそ30話の書き取りを行った。編

²⁴ Kautzsch, Emil: Socin, Albert. In: Allgemeine Deutsche Biographie 54 (1908), S. 371-375, hier S.372.

²⁵ 現在はトルコ領、トルコ南東部の地域。

²⁶ Prym, Eugen / Socin, Albert: Neu-aramäische Dialekt des Tur Abdin. Göttingen 1881. 語り手に関しては、第一巻のまえがき S.XI に言及がある。

²⁷ Prym / Socin 1881, S.XIIff.

²⁸ Prym / Socin 1881, S.XVf.

²⁹ 1890年の Prym の講演記録より。Bergsträßer 1915, Bd.1. S.IX.



写真2 マルーラ村の聖セルジウス修道院（カトリック）
Prym と Socin はここに宿泊して昔話の聞き書きを
行った。（2009年12月25日筆者撮影）



写真3 右手奥に見える十字架が、「断崖の上に聳える聖セル
ジウス修道院」である。（2009年12月25日筆者撮影）

者 Bergsträßer によれば、二人は『トゥール・アブディン』と同様の方法で調査を実施した。³⁰

『トゥール・アブディン』は 10 年以上を要したとはいえ自身の手で出版されたのに対し、『アラム語の昔話』が未刊のままで残されたのは、二人はテキストの正確を期すために、マルーラ村への再訪を計画していたためではないかと Bergsträßer は推測している。³¹

Bergsträßer が編纂した『アラム語の昔話』には、計 42 話が採録された。各話にタイトルはなく、番号が付けられている。1-28 番は Prym と Socin が Zēni から聞いたもの、29-33 番は Stumme³² が 1889 年に Zēni の息子（当時 13 歳）から聞き書きしたものである。34-42 番は Bergsträßer が 1914 年に集めたものである。Bergsträßer はまずダマスカスで Abdallah el-M'allim という名のマルーラ村出身の 16 歳前後のパン職人³³ に、先人の残したテキストを聞いてもらい、確認作業を行った。34, 35, 37, 38, 42 番は彼に新たに語ってもらった話である。残る 36, 39-41 番は、マルーラ村に滞在した折に、彼のおじ Habib Tannus に語ってもらったものである。³⁴

第二巻所収のドイツ語への翻訳は、1-13 番を Prym、14-28 番を Socin、残りのテキストは全て Bergsträßer が担当した。Prym や Socin は文章を多少整えているが、Bergsträßer は出来る限り忠実な翻訳を心がけたと明記している。³⁵ Bergsträßer は、1915 年にこの昔話集を上梓した後、1921 年には「当時入手可能なすべてのテキストを対象にした」現代アラム語の語彙集を編纂している。³⁶

³⁰ Bergsträßer 1915, Bd.1. S.Xf.

³¹ Bergsträßer 1915, Bd.1. S.XI.

³² Stumme は Socin の弟子で、この他にも、Socin の仕事を引き継ぎ、出版している。

³³ マルーラ村の出身者は、ダマスカスでは製パン業に従事する者が多いと Bergsträßer が指摘しているが、シャミの父親もパン屋を営んでいた。

³⁴ Bergsträßer は、語り手（パン職人ら）の音声の録音も試みている。Bergsträßer, G.: Phonogramme im neuaramäischen Dialekt von Malula. München 1933.

³⁵ Bergsträßer 1915, Bd.2. S.IX.

³⁶ 高階 1986 (72 号) 88 頁。Bergsträßer G.: Glossar des neuaramäischen Dialekts von Malula. Schriftenreihe: Abhandlungen für die Kunde des Morgenlandes 15-4. Leipzig 1921.

Prym らが、既に 19 世紀後半に語り手についての情報を明記していることは特筆に値する。ドイツ民俗学の研究者によるフィールドワークにおいても、19 世紀末より、昔話や伝説を集める際に語り手に関する情報が徐々に記録されるようになったとはいえ、まだ不十分な時代だったのである。1906 年の論文の中で Wossidlo という研究者でさえ、民間伝承の集め方に関連して「語り手は名前を公表されることを嫌うため、本人の名前は挙げず、せいぜいユニシアルのみにするべきだ」と記述していた状況だったのである。³⁷

しかし『アラム語の昔話』においては、言語への関心から慎重な聞き書きが行われ、信憑性の高い記録が残されたのだった。

2. シャミの『マルーラ村の昔話』

ドイツでは、グリム兄弟やハウフ (Wilhelm Hauff, 1802-27)³⁸ らが 19 世紀に刊行した昔話集が今日でも親しまれており、昔話が愛好される伝統がある。なかでもハウフの『隊商』(1826 年) は主な舞台をオリエントとしており、その系譜上でシャミの『マルーラ村の昔話』は受容されたといえる。

シャミは、『マルーラ村の昔話』は、『アラム語の昔話』から選んだ話と、知り合いから聞いた話に基づく、とまえがきに記している。例外は「タクラ (テクラ)」の物語³⁹ で、これは創作したという。

伝説のテクラは聖パウロの説教を聞き、婚約を破棄して信仰に生きる道を選び、火刑となる。しかし雨が炎を消し、後にマルーラ村に逃げこむが、岩に阻まれてしまう。神に懇願すると、山に裂け目ができ、高い岩山の間に細い道が現れ、山の中の洞窟に逃げ込むことができる。テクラは終生そこに住

³⁷ Wossidlo, Richard: Über die Technik des Sammelns volkstümlicher Überlieferungen. In: Zeitschrift des Vereins für Volkskunde 1. 1906, S.1-24. 特に S.13-14.

³⁸ シュトゥットガルト生まれの作家。『昔話年鑑』(Märchen-Almanach) 三部作の『隊商』(1826 年)、『アレクサンドリアの長老』(1827 年)、『シュペッサルトの宿屋』(1828 年)のほか、歴史小説『リヒテンシュタイン』(1826 年)などを著した。

³⁹ Takla oder Warum mein Großvater vierhundert Jahre sein Gewehr trug. In: Schami 2009, S.115-138.

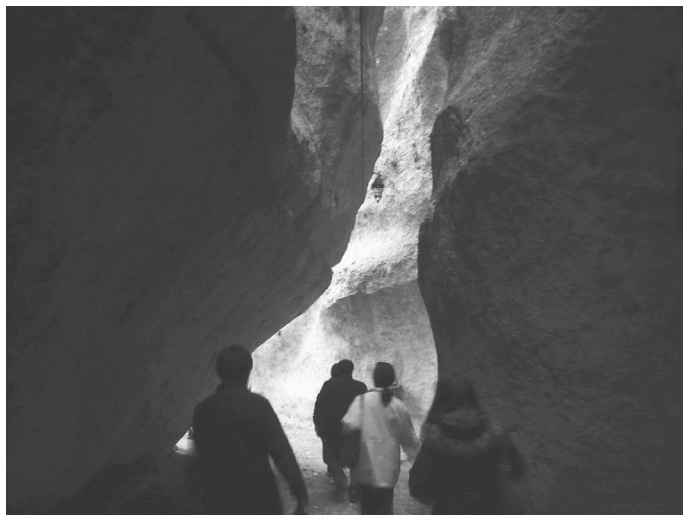


写真 4 聖テクラ修道院へは、伝説の世界を彷彿させる岩山の間を通り抜けて行く。(2009年12月25日筆者撮影)



写真 5 聖テクラ修道院（ギリシャ正教）(2009年12月25日筆者撮影)

み、そこに埋葬されたという。⁴⁰ (写真 4 と 5)

シャミは、このよく知られた伝説を「僕の祖父」の思い出と関連づけて、自由に語り直している。ただし『アラム語の昔話』13 番の一部の文句を「タクラ」に引用はしている。⁴¹

また今回の考察によって、シャミが採用しなかった話の一つに、「ねずの木」(AT720) の類話 (『アラム語の昔話』31 番) があることが分かった。これは、ゲーテの『ファウスト』に出ているほど広く流布している話だが、男児 (継子) を殺害し食べてしまう、その残酷な内容ゆえに議論がなされる話でもある。⁴² シャミが採用しなかった理由は容易に推測される。

次節では、口承から集めた『アラム語の昔話』とそれに依拠して書かれた『マルーラ村の昔話』の比較により、両者の特徴を明らかにしていきたい。本稿では、『アラム語の昔話』第二巻所収のドイツ語訳と、シャミによる原語 (ドイツ語) テクストを参照した。シャミの作品のタイトルは出来る限り泉千穂子による日本語訳を踏襲する。

3. 比較

3.1. 『アラム語の昔話』7 番とシャミの「片目の驢馬」

シャミの作品は、原話をほぼ踏襲しているものから、大幅に加筆しているもの、他の話と混交しているものまでさまざまである。各話には魅力的なタイトルも付けられている。

『アラム語の昔話』には、前述の通りタイトルがないため、本稿では、以降「7 番」の話を「アラム 7 番」と表記する。まずは「アラム 7 番」の概略

⁴⁰ 荒井献編『新約聖書外典』講談社文芸文庫 1997 年 234-255 頁。Rahmoun, M.W. (tr.): Maaloula. History & Ruins. Prepared by Rama Elias Keriaky. マルーラ村の聖テクラ修道院前の売店で販売している観光ガイドブック (英語とアラビア語) 19 頁。

⁴¹ Schami 2009, S.131. Bergsträßer 1915, Bd.2. S.46.

⁴² 「ねずの木」に関しては、拙論を参照。西口拓子「グリムの「ねずの木」——或る「残酷な」昔話」『専修人文論集』第 82 号 専修大学学会 2008 年 181-203 頁。

を見てみたい。

夫は、片目の驢馬に特別な草を食べさせ、大切にしている。しかし留守の間に、妻はやって来た男に驢馬を売ってしまい、夫には、驢馬は裁判官になって出かけたという嘘をつく。「どの裁判官がおれたちの驢馬だろうか」と夫が尋ねると、妻は「片目の裁判官だ」と答える。夫は片目の裁判官を連れ帰ろうとするが、賢明な裁判官は騒ぎにせず、驢馬を買えるだけの金を夫に渡し、帰宅させる。

シャミは、これに基づく話のタイトルを「片目の驢馬」とし、内容は大筋で前述の話を踏襲している。

シャミの話の冒頭には、夫の性格づけとして、自分が一番賢いと思い、妻を見下している、との描写がある。そして夫は驢馬は大事にするが妻の言葉には耳を貸さないため、驢馬も夫の言うことにしか従わなくなる。だからこそ妻は、行商人に驢馬を売り渡し、交換に服と首飾りを手に入れることをやましく思わないのである。こうした行動の「動機付け」は、創作昔話（Kunstmärchen）の特徴である。一方「アラム7番」においては、驢馬を売る理由は全く示されていない。そもそも売る相手の「男」が誰であるのかも描出されない。ヨーロッパの昔話の文体を研究したリュティが指摘した、民話（Volksmärchen）の特徴——どのような形であれ動機付けをしない⁴³——を「アラム7番」も有しているのである。

『アラム語の昔話』では、常に筋のみが淡々と語られ、終結部も簡潔である。一方、シャミの「片目の驢馬」の終結部では、夫はこの事件で心を入れ替え、以後は妻の意見にも耳を貸すようになり、幸せに暮した、とある。昔話的なハッピーエンドの枠組みを踏襲しながら、夫の愚かさをコミカルに描き出しているのである。

シャミの話では、登場人物の言葉も巧みなのが特徴的である。一例を挙げると「おまえの驢馬はどのくらいの価値があったのか？」という「アラム7番」での裁判官の言葉は、シャミでは「私は驢馬としてどのくらいの価値

⁴³ Lüthi, Max: Das Volksmärchen als Dichtung Düsseldorf/Köln 1975, S.82. 邦訳はリュティ、マックス『昔話——その美学と人間像』小澤俊夫訳 岩波書店 1985年 148頁。

があったのか？」⁴⁴ となっている。こうして、裁判官は自分が驢馬であったことを否定はせず、相手の機嫌を損ねることなく、おかしな男の暴走を抑えており、裁判官の賢さが一層際立っている。

マルーラ村で書き取られた昔話には、『千一夜物語』と共通するものも少なくない。「アラム 7 番」によく似ているのは「法官の驢馬」（マルドリユス版第 800・801 夜）⁴⁵ であるが、その概略は以下の通りである。

エジプトの徴税人の妻は、若い情人に貢いでいる。あるとき徴税人は驢馬に乗って仕事に出かける前に、パンを調達するために市場に行く。既に出立したと思った情人がやってくる、三百ドラクム必要なため、驢馬をねだり、連れ去ってしまう。女は、帰宅した夫に、驢馬は「法廷を開く」と言って出て行ったと伝える。妻の助言に従い、徴税人は法廷に行き、好物の蚕豆を見せながら、急用があるとの合図を法官に送る。法官は、頭のおかしな男だと思うが、妙な噂が立つよりは得策だと考え、三百ドラクムを与えて、それで驢馬を買うように言い含める。

このように、明らかに同型の話だが、『千一夜物語』版の最後には続きが短く語られている。家畜の市場には、飼っていた驢馬が売りに出されており、買って欲しそうに擦り寄ってくるが、徴税人は、時に法官になってしまう驢馬はご免だと思い、別の驢馬を買う、ということが軽妙に描かれている。

これらの話は、アールネ／トンプソンの『昔話の型』の AT1675 「市長になった牡牛（驢馬）」に相当する。梗概は「農夫は雄牛（Ox）に勉強をさせる。師となる男は雄牛を殺す。農夫には雄牛は町に行き商人（市長）になったと言う。農夫は彼を訪ねて行き、Peter Ox という（もしくは類似の）名前の男に会い、あいさつをする。農夫はそれを例の牛だと認め、お金を受け取る。」⁴⁶

この話型は、ドイツには「雄牛の法王」として 19 世紀後半の記録が残っている。それは次のような内容である。

⁴⁴ Schami 1987, S.18.

⁴⁵ 本稿では、『千一夜物語』はマルドリユス版の翻訳を参照した。豊島与志雄他訳『完訳 千一夜物語』第十巻 岩波文庫 1988 年 239-251 頁。

⁴⁶ Aarne, A. / Thompson, S.: The Types of The Folktale. A Classification and Bibliography. 2d rev. ed. (FFC 184) Helsinki 1961, S.474.

農夫が、かわいい雄牛に勉強をさせるため商人に相談して弁護士に預ける。商人は、弁護士と共に謀し、農夫から2百ターラーを巻き上げた上、二人で雄牛を食べてしまう。農夫には、法王になったと言う。信じた農夫はローマに行き、法王の首に縄をかけて連れ帰ろうとする。旅の間、顔も洗わず髪も梳かなかつたため、農夫は悪魔と間違われ、恐れた人々から多額の金を提供される。雄牛が法王という立派な地位についていることを悟り、あきらめて帰郷する。⁴⁷

このように、『昔話の型』に概ね一致している。中近東だけでなく、広くヨーロッパにも伝わる話なのである。

3. 2. 『アラム語の昔話』10番とシャミの「ネズミ殺し」

「アラム10番」とほぼ同じ話が「アラム32番」として短く語られている。後者は、StummeがZēniの息子から聞き書きしたものである。よって母親が語った話と一致するのは偶然ではない。これらの話の概略は次の通りである。

猫を知らず鼠の被害に困っている町に、油売りがやって来て、猫を二千ピアスターで売る。猫が大きくなったので、町の人々は石を投げて殺そうとするが、かえって家を壊してしまう。猫は次に人間を食べるつもりだと思い込み、退治するため村に火を放つ。しかし猫は火を逃れ、猫を恐れた人々が野原で暮らすようになる。油売りが再訪し、猫を引き取る見返りとして再度二千ピアスターを受け取る。彼は故郷に帰り、皆に体験したことを話す。

「アラム10番」では、起きた事が繰り返して語られている。まずは、再訪した油売りが同一人物だと気付かずに、これまでの経緯を全て話して聞かせる。さらに最後に、故郷に帰った油売りは、起きた事をほぼ同じ言葉で再度語るのである。こうした繰り返しは、『アラム語の昔話』に顕著な特徴である。これは、口頭で語られる昔話の特徴でもあり、耳で聞く場合には心地よ

⁴⁷ Papst Ochse. In: Sagen, Märchen und Gebräuche aus Meklenburg. Gesammelt und herausgegeben von Karl Bartsch. Bd.1. Sagen und Märchen. Wien 1879, S.494-495. 邦訳は、「法王になった雄牛」、『雪の色が白いのは——グリムにはないドイツのむかし話——』ペルント・シャハト編 大古幸子訳 三修社 2006年 61-66頁。

いが、読む場合には煩わしく思われる。シャミの「ネズミ殺し——無知が無力だった話」は、原話をほぼ踏襲しているが、こうした繰り返しは削除され、簡単な説明に変えられている。この他の話においても、「アラム」版ではほぼ同じ言葉で繰り返される場面が、シャミの作品では削除されている。

この話は、『昔話の型』では、AT1651「ウィットントン猫」である。梗概は、「猫が知られていない所で、それを大金で売る。I. 猫を手に入れる。

(a) 主人公には遺産として猫のみが遺される。もしくは (b) 四枚のコインを見つけるかもらうかする。それを川に投げ入れてテストする。一つだけが浮き、他は贖金である。コインで猫を買う。II. 猫の売り渡し。鼠がはびこっているが、猫が知られていないところへ連れて行き、猫を高値で売る。」⁴⁸

『昔話百科事典』によれば、この話型は、古くから中欧、北欧に広く伝わるものである。とりわけ、イギリスでリチャード・ウィットントンという実在の人物（14世紀末からロンドン市長を三度務めた）と結びついて有名になり、今日では絵本としても親しまれている。イギリスでは劇作品やバラードとしても1605年より存在し、民衆本（チャップブック）も1656年のものが資料で裏づけられている。民衆本は18世紀にはヨーロッパの諸言語に翻訳された。イギリスでジェイコブズ（Joseph Jacobs, 1854-1916）が三種類のチャップブックを基にまとめた話もよく知られている。⁴⁹

『昔話の型』では、このAT1651とAT1281「得体の知れない動物を処分する」は別の番号が割り当てられているが、大抵は一つの話として現れる。それは「アラム10番」の場合も同様である。

『昔話百科事典』は、この話がヨーロッパだけではなく近東にも広まっていることをも指摘している。近東ではしばしばAT1650「三人の幸福な兄弟」や前述のAT1281と混交した形でみられるという。近東のものもヨーロッパ

⁴⁸ Aarne / Thompson 1961, S.470. Utherによる『昔話の型』改定版では、梗概はより詳しく記述されている。Uther, Hans-Jörg: *The Types of International Folktales. A Classification and Bibliography.* (FFC 284) 3 vols. Helsinki 2004, hier Bd.2. S.354f.

⁴⁹ Kooi, Jurjen von der: *Katze als unbekanntes Tier.* In: *Enzyklopädie des Märchens.* Hrsg. v. Kurt Ranke u. a. Berlin 1975ff., Bd.7. S.1121-1126. 「ウィットントンと猫」については、小池滋著『もうひとつのイギリス史』第三章（中公新書1991年47-54頁）にも詳しい。ジェイコブズの話は、河野一郎編訳『イギリス民話集』岩波文庫1991年143-157頁。

のものも、13世紀末の裏付けがあり、どちらがより古いかということも、伝播経路に関しても決定的な論は未だ出されていない。⁵⁰

グリム兄弟の『昔話集』にも、この昔話の類話にあたる「三人の幸福な子どもたち」(KHM70)⁵¹がある。

三人の息子は、父親から雄鶏、大鎌、猫を遺産として手に入れる。三人は、それぞれが知られていない島に辿り着き、それを売って大金を得る。末息子が、鼠がはびこる島で猫を売り、最も多くの宝を得る。一方、猫はそこで多くの鼠を噛み殺し、喉が渴いて叫ぶと、人々は驚いて逃げる。城に居残った猫に向けて火をかけたため、城が焼け落ちてしまう。

このように、グリム版も三人兄弟の話となっており、AT1650と混交した形がヨーロッパにもみられることが分かる。

3. 3. 『アラム語の昔話』19番とシャミの「五人の訴訟人」

次に、「アラム19番」を少し詳しく考察してみたい。

Froschlaloの兄(もしくは弟)には息子がいない。子どもが授かるよう祈ってくれて、もし息子が誕生したら礼として子羊をくれるという。ところがこの約束は守られない。二人は決着をつけるためダマスカスの裁判所に向かう。途中の町で、兄は宿泊先を見つけたが、Froschlaloには誰も声をかけてくれない。やむなく外で弁当を食べていると、兄の宿泊先の女性が、味見をさせるよう言うてくる。拒否すると、女は怒り、その夫が彼を訴える。次に、裁判と聞いてまどわりつくユダヤ人を振り切ろうとして、手が当たり、目を叩き出してしまう。彼にも訴えられる。さらに、転倒した馬を起こすのを手伝うが、馬の尻尾を千切ってしまう。この男にも訴えられる。ミナレット(参考:写真6)に逃げこむが、追い詰められて飛び降りると、下で寝ていた病気の男を圧死させてしまう。この男の親戚を含めて、計五名に訴えられる。裁判官は被告に有利な判決を出し、五人の原告には被告へ支払いを命じる。

⁵⁰ Kooi 1975ff., S.1125.

⁵¹ グリム兄弟の Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm を本稿では『昔話集』と略す。国際的な慣例に従い、言及する昔話の初出時に、最終版における番号を KHM の後に付して表記する。

これをシャミは、「五人の訴訟人——恩知らずからはじまる話」というタイトルで採用している。主人公の名前はファラーシュ (Farage)⁵² となり、兄(弟)が金持ちと規定されるなど、多少の違いはあるが、大筋において原話が踏襲されている。またシャミは、冒頭でファラーシュを逞しい男と描写しているが、この男は後に、他人の目が飛び出すほどひどく叩いたり、馬の尻尾を千切ってしまったりするので、その伏線となっている。



写真6 ウマイヤド・モスク(ダマスカス)のミナレット
ウマイヤド・モスクはシャミの作品にしばしば登場する。(2009年12月26日筆者撮影)

「アラム」版では、裁判の際に、Froschlaloがこれまでの経緯を詳しく語る場面があるのだが、シャミはそうした繰り返しを削除しているのは前述の通りである。

さて、「アラム」版では、目を叩き出されてしまったユダヤ人の訴えに対して、裁判官は次のように言う。

⁵² 日本語訳ではファラクとなっているが、本稿では朗読CDに倣い、ファラーシュと表記する。

「もう少し男に近よりなさい。彼がおまえのもう一方の目を叩き出せるように。なぜなら、ユダヤ人の二つの目が、イスラム教徒の一つの目に相当するからだ。」⁵³

つまり、まず残りの目を取らせた上で、相手（Froschlalo）の片目を取ってよいというのである。さらに、被告に対しての支払いをも命じられたユダヤ人は、「彼が私の目を叩き出しただけでもたくさんなのに、その上彼に四百ピアスター払わなければならないのですか」⁵⁴ と訴えるが、聞き入れられない。

シャミが、この男性を「一人の男」に変更しているのは、今日では当然の配慮だろう。グリム兄弟の『昔話集』には、「いばらの中のユダヤ人」（KHM110）という、ユダヤ人に不当な仕打ちがなされる話があるが、今日では一般向けの全集では削除されることが多い。⁵⁵ ヴィルヘルム・ブッシュ（Wilhelm Busch, 1832-1908）の『敬虔なヘレーネ』（1872年）にもユダヤ人に対する悪意ある描写があるが、子ども向けの朗読 CD においては、その箇所はやはり削除されている。⁵⁶

さて、シャミの話の「一人の男」も、裁判で有利になるよう手伝うと言って執拗に付きまとう。

「放せ！」とファラーシュはうんざりして言い、押し付けがましい男を突き放した。男はふっとんで、地面に落ちると、ものすごい悲鳴をあげて、顔を手で覆った。ファラーシュは放っておいて先に進んだが、兄が呼びかけたので、立ち止まった。

⁵³ Bergsträßer 1915, Bd.2. S.65.

⁵⁴ Bergsträßer 1915, Bd.2. S.65.

⁵⁵ 例えば Lechner 社（Wien u. a.）による廉価版（1992年）。編集後記にもその旨が記されている。

⁵⁶ Max und Moritz von Wilhelm Busch. Gelesen von Rufus Beck. Der HörVerlag 2000. ブッシュの Die fromme Helene の6連目が削除されている。しかし奈倉が指摘するように、『暦物語』の中で偏見を持たずにユダヤ人を描いたヘーベル（Johann P. Hebel, 1760- 1826）のような人物もいた。奈倉洋子『グリムにおける魔女とユダヤ人——メルヒェン・伝説・神話』鳥影社・ロゴス企画 2008年 157-162頁。

「ファラーシュ、運の悪いやつめ。おまえはこの男の片目を叩き出してしまったんだぞ。」

ファラーシュは驚いた。手があたったのは顔ではなく胸だったからだ。⁵⁷
(下線は筆者)

この事件に対して、シャミ版の裁判官は「一人の男」に対して次のように言い渡す。

奇妙だ。おまえは血を一滴も失わずに、目玉を失っている。奇跡だ。どうやるのか見てみたい。ファラーシュは、もう一つの目を叩き出しなさい。もしもう一つからも血が出なければ、おまえも彼の両目を叩き出してよい。⁵⁸ (傍点は筆者)

ここでは、平等に「両目」を叩き出して良いと言っているところにも注目したい。

さて、その判決に従えば、目が見えなくなってしまうため、男はうろたえる。

片目の男は、「お慈悲を！私が嘘をついたのです。ここに私の義眼があります。ちょっとお金を稼いだかっただけです。この男は無実です。」と叫んだ。

「これで事情が変わった。おまえは目を失わないでよいが、この無実の男に四百ピアストル払うように。それから二度と裁判所に姿を現すな。」⁵⁹ (下線は筆者)

下線部の描写によって、ファラーシュは無実ということにされた。だからこそ、裁判で罪に問われず、金を得ているのである。ところが、一般に流布

⁵⁷ Schami 2009, S.52.

⁵⁸ Schami 2009, S.55.

⁵⁹ Schami 2009, S.55.

している昔話では、実際に目を叩き出しているのが通例であるし、勸善懲悪を超越したところで、巧みな判決が出されており、それが完全に不当であるにもかかわらず、訴えを取り下げざるを得ないことがおかしみを醸し出しているのである。

これは、『昔話の型』では、AT1534「一連の賢くも不当な判決」である。梗概は、「原告が自ら取り下げる。(1) 男が借りた馬の尻尾を引きちぎる。(判決は) 馬の尻尾が伸びるまで男が馬を飼う。(2) 男がベッドから落ちて赤ん坊を殺す(あるいは流産させる)。(判決は)(殺した／流産させた)男が、母親に新たに赤ん坊を授ける。(3) 男が橋から落ちて船頭の息子を殺す。(判決は) 船頭は橋から落ちてその男を殺してもよい。」⁶⁰

『世界昔話ハンドブック』の「中東・アラブ」の章には、とりわけエジプトでよく知られている話として「裁判官とパン屋」(AT1534)が紹介されている。⁶¹そこでは、パン屋が、コプト教徒の目を潰し、妊婦を流産させ、ミナレットから飛び降りて男性を死なせている。コプト教徒に対しては、「ムスリムの片目とコプト教徒の両目の価値は等しい。パン屋は汝の残った片目を潰し、汝はパン屋の片目を潰しなさい」と言い渡している。これは「アラム」版と共通している。こうした「不当さ」はこの話型には付随するものなのだ。二番目と三番目の判決は、『昔話の型』の梗概と同様である。

やはり『千一夜物語』にもよく似た話が入り入れられているので、本節の最後に紹介したい。「抜け目のない法官」(マルドリユス版 第803-804夜)⁶²である。

カイロの法官の奴隷が、窯焼き場に行き、鷲鳥は自分のものだと主張する。本当の持ち主に対しては「飛んでいってしまった」と言うよう入れ知恵をする。しかし窯焼きは、持ち主と殴り合いとなる。見ていた妊婦の腹に一撃があたり、流産してしまう。夫は怒り、逃げる窯焼きを追う。窯焼きは、露台の上に登り、そこから墜落し、階下で寝ていたマグリブ人を圧死させてしまう。法官は判決を出す。鷲鳥の件は、アッラーも復活をさせているのに、原

⁶⁰ Aarne / Thompson 1961, S.439.

⁶¹ 稲田浩二編『世界昔話ハンドブック』三省堂 2004年 89-90頁。

⁶² 豊島与志雄他訳『完訳 千一夜物語』第十巻 岩波文庫 1988年 264-272頁。

告は信仰が足りないと一蹴される。流産の件は、女を妊娠させるよう窯焼きに命じる。圧死の件は、被害者の兄弟がミナレットから窯焼きを目指して飛び降りる許可を出す。そうしてみなが訴えを取り下げている。

3. 4. 『アラム語の昔話』22番とシャミの「だまされやすい人」

「アラム 22 番」は次のような話である。

ある男⁶³ が夫の留守中にやって来て、鶯鳥をよこさなければ二度と来ないと妻に言って無理やり持ち帰ってしまう。男の入れ知恵により、鶯鳥は飛んでいってしまったという嘘をつく。二日目は、夫は、鶯鳥が逃げないよう殺しておく。男がまた来て、鶯鳥をくれないならば二度と来ない、くれるならば毎日来る、と言って再び持ち帰ってしまう。今度は妻は、鶯鳥を買ったのは(うたた寝の)夢だったのでしょう、と言い、夫を騙す。三日目には男は、子どもの分も含めて二羽とも持ち帰ってしまう。妻は夫に頼み、裁判官を家に招待してもらう。夫のいないところで、夫の病気を治すのに裁判官の睾丸が必要だと語る。裁判官は恐れて逃げ出す。妻は夫に、裁判官が鶯鳥を二羽とも奪って逃げたという嘘をつく。夫は「一つだけでもください!」と叫んで追いかける。それが睾丸のことだと思った裁判官は「一つでもごめんだ」と言いながら大急ぎで逃げる。

ここには、前節の「抜け目のない法官」と同様に、鶯鳥が「飛んでいってしまった」という言い訳が使われている。このように、モチーフやツールが相互に結びつく可能性は多様に開かれているのである。

さて、この話は『昔話の型』では、AT1741「司祭の客と食べてしまった鶏」で、梗概は以下の通りである。「召使は鶏を食べてしまう。客には、司祭が耳を切ろうとしているので逃げるように言う。司祭には客が鶏を二羽盗んでいったと言う。司祭は、「せめて一つでいいから、よこせ」と言いながら客の後を追う。」⁶⁴

グリム兄弟による『昔話集』では、「かしこいグレーテル」(KHM77)が

⁶³ 本文では、「男」となっているが、これは「情夫」だという注釈が付いている。Bergsträßer 1915, Bd.2, S.75.

⁶⁴ Aarne / Thompson 1961, S.491.

この話型である。料理人のグレーテルは、来客用に鶏を二羽調理するが、「味見」をするうちに、二羽とも完食してしまう。客が到着した時、主人は鶏を切り分ける包丁を研いでいたため、グレーテルは、あなたの両耳を切り取るための準備をしている、逃げた方がよいと告げる。客はそれを信じて逃げる。その一方で主人には、客が鶏を持ち逃げしたと虚偽の報告をする。主人は包丁を手に、「一つだけでいい」と叫びながら、客を追いかける。主人は一羽返せという意味で言ったのだが、客は片方の耳をよこせと言っているのだと思ひ込み、必死で逃げる。

「かしこいグレーテル」にグリム兄弟が付けた注釈では、パウリ (Johannes Pauli) の『冗談とまじめ』(1522年) 第364話「料理女が二羽のローストチキンを平らげたこと」との類似性が指摘される。⁶⁵

パウリの話では、日曜に主人が同僚を夕食に招待し、鶏を二羽調理させる。つまみ食いが好きな料理女は、鶏を二羽とも食べてしまう。この続きは、グリムとほぼ同じである。ただし、パウリのテキストの最後の「こうして下女は涼しい顔をしていられました。女たちの悪知恵はここにも見られるでしょう」⁶⁶ という教訓めいた言葉は特徴的である。パウリは、15世紀中頃に生まれ1519年以降に没したと推定されるアルザスのフランシスコ修道会士で、説教師として名声を博した人物である。『冗談とまじめ』は、一般の信徒らが、信仰心を高めつつも楽しく読むことが出来る本として編纂されたものなのである。⁶⁷

『昔話百科事典』でもこの話型は項目として取り上げられており、それによるとヨーロッパから中東、アジア、インド、アフリカに笑話として流布している。⁶⁸ 切り取ろうとされるのは、一対のものである必要があり、耳もし

⁶⁵ Rölleke, Heinz (Hrsg.): Kinder- und Hausmärchen gesammelt durch die Brüder Grimm. Stuttgart 2006, Bd.3. S.138. 注釈を担当したのは、主に弟のヴィルヘルムである。

⁶⁶ パウリ、ヨハネス『冗談とまじめ』名古屋初期新高ドイツ語研究会訳 同学社 1999年 370頁。

⁶⁷ パウリの話はドイツ語で Predigtmärlein (説話) と呼ばれるもので、ドイツ文学史上では Schwank (笑話) に含まれる。(パウリ 1999年 707頁。)

⁶⁸ Kooi, Jurjen van der: Priesters Gäste. In: Enzyklopädie des Märchens. Hrsg. v. Kurt Ranke u. a. Berlin 1975ff., Bd.10. S.1308-1311, hier S.1309. その他、『ナスレッ

くは辜丸となっている。

『千一夜物語』では、「細君どもの腹黒さ」（マルドリユス版 第 847 夜以降）の中で肉屋が語る挿話⁶⁹ がこの話型に属する。ここでは、カイロの女が鶯鳥を二羽とも情夫に与えてしまう。やはり別の客を招待し、夫が辜丸を取ろうとしていると言って脅し、逃げた客に罪を着せている。

シャミは、「だまされやすい人」としてこの話を採用している。『アラム語の昔話』では三度とも鶯鳥が奪われているが、シャミの話では、三度目には女は二羽の鶯鳥を守りぬいている。本節で考察してきたように、この話型では、身体の一部が切り取られるという危険を捏造し、逃げる人に鶯鳥がなくなった罪を着せるのだが、シャミは、鶯鳥を奪わずに男を追い返すためにこのモチーフを用いている。この他の点でも、シャミははかなり趣の異なった話に仕上げているのだが、女性が策略を用いて成功するという点は、AT1741 と共通している。

3. 5. 『アラム語の昔話』21 番とシャミの「魚が水を吐く」

最後に『千一夜物語』との関連でもう一話に簡単に言及しておきたい。「アラム 21 番」では、金の背をした魚を見つけた男は、娘を通してその魚を王に献上する。魚は、王妃の顔に水をかける。王妃は、その理由を言うよう娘に迫る。娘は三度たとえ話をし、それを回避する。最後に娘は、王妃の裏切りを暴き、王妃と愛人（奴隷）は処刑される。そして王はその娘と結婚する。⁷⁰

シャミは、原話を生かしつつも、大幅な変更を加えて「魚が水を吐く」という話にまとめている。シャミの話においては、王妃と大臣が共謀して王に毒を少量ずつ盛り、殺害を企てている。

ディン・ホジャ物語』にも、妻が夫の留守中に肝臓（または肉）を食べてしまう話が数話ある。しかし七種類の版本をもとにした邦訳版には、AT1741 の最後の部分——「せめて一つでいいから、よこせ（返せ）」と言いながら客の後を追う——を含んだ話はなく、妻は、猫が肉をさらってしまったという言い訳をしているだけである。護雅夫訳『ナスレディン・ホジャ物語』平凡社（ワイド版東洋文庫）2007 年 209-210 頁。

⁶⁹ 豊島与志雄他訳『完訳 千一夜物語』第十一巻 岩波文庫 1988 年 182-188 頁。

⁷⁰ Bergsträßer 1915, Bd.2. S.72ff.

ここでは、「アラム 21 番」で娘が語る最初のたとえ話に着目する。それは以下のような内容である。

猟師がステップで狩猟をしていた。喉が渇き、洞穴に入る。滴る水を杯に溜める。飲もうとすると鷹が飛んできて水をこぼしてしまうので、怒って撃ち殺す。上を見ると、それは水ではなく蛇の口から出ていた毒だったことが分かり、猟師は後悔の念に苛まれる。

これは『千一夜物語』の「シンディバード王の鷹」（マルドリユス版 第 5 夜）⁷¹ とほぼ一致する。猟師は狩猟好きの王となっており、鷹が杯の水をこぼすのが三度続いて初めて王は鷹の両翼を斬り落しているところだけが異なる。

『アラム語の昔話』の中には、この他にも『千一夜物語』との類似が顕著な話が含まれている。『千一夜物語』は「まさに東西説話の宝庫」⁷² ともいわれ、世界各地の民話との類似点が見つかっているが、『アラム語の昔話』もその一例となっている。マルーラ村はキリスト教徒の村ではあるが、アラビア語圏内に位置するため、『千一夜物語』とは直接的な影響関係も考えられる。これに関しては今後の詳細な研究が待たれる。

おわりに

アラブの昔話には笑話（AT1200-1999）が多いことは、本稿で考察した話からも分かる。Nowak の研究によれば、笑話が 30 パーセントだったのに対して、いわゆる本格昔話（AT300-1199）の中の魔法昔話（AT300-749）は 8 パーセントにすぎなかったという。⁷³ むろん『アラム語の昔話』にも魔法昔話が含まれている。「アラム 2 番」の後半は AT403 「白い嫁と黒い嫁」であり、「アラム 14 番」（33 番も同型）は AT510B 「金と銀と星のドレス」であ

⁷¹ 豊島与志雄他訳『完訳 千一夜物語』第一巻 岩波文庫 1988 年 67-69 頁。

⁷² 西尾 2007 年 40 頁。

⁷³ Spies, Otto: Arabisch-islamische Erzählstoffe. In: Enzyklopädie des Märchens. Hrsg. v. Kurt Ranke u. a. Berlin 1975ff., Bd.1. S.686-718, hier S.707. Nowak, Ursula: Beiträge zur Typologie des arabischen Volksmärchens. Phil. Diss. Freiburg 1969.

る。後者の導入部は、イタリアのストラパローラ (Giovan Francesco Straparola, 1480 頃-1557 年以後) の「匣の中の少女」⁷⁴ にも似ている。さらに「アラム 15 番」は AT725 「夢」で、「アラム 20 番」は AT314 「馬 (金髪) に変えられた若者」であり、後者はグリムの「鉄のハンス」(KHM136) と同型である。その他、「アラム 31 番」が AT720 「私の母が私を殺した。私の父が私を食べた。ねずの木」で、これは魔法昔話に分類されるものの、前述のように、近親者によって殺害され、食べられるという恐ろしい話で、シャミが採用しなかった話である。

そして『アラム語の昔話』では笑話としての性格は強調される傾向にある。「ウィットントンの猫」と同型の「アラム 10 番」の最後では、油売りが故郷に帰り、「あそこの人々は理性がない」と言い、猫を恐れた人々を「愚か者」として笑い飛ばしている。

本稿で考察してきたように、『アラム語の昔話』の中にもグリムの昔話をはじめとしたヨーロッパの昔話と共通する話が見られた。AT725 「夢」に相当する「アラム 15 番」は、日本でも「夢見小僧」として知られている。類似の話が世界のあらゆる場所で見出されていることは、周知の通りである。

こうして各地の昔話と共通の話型をとりながらも、『アラム語の昔話』は独自性も有している。先行研究によれば、ヨーロッパの昔話では主人公が理想的な像として描かれ、類型化もされているのに対し、アラブの昔話では、主人公は現実世界を映し出す人物として描かれている。⁷⁵ 『アラム語の昔話』もその特徴に当てはまっているが、これは、魔法昔話がそもそも少なく、笑話が多いというジャンル上の問題にもかかわっている。

『アラム語の昔話』は、テキストを見る限りでも、信憑性の高さが感じられる。実際にも、前節で考察したように、口承文芸の特徴を備えて (残して) いるのだが、それは何より、言語学的な関心から集められたものであるため、文学的な脚色を免れているからである。

一方で、語り手として名高いシャミは、伝承のおもしろさを生かしながら

⁷⁴ Uther, Hans-Jörg (Hrsg.): Märchen vor Grimm. München (Eugen Diederichs Verlag) 1990, S.11-22.

⁷⁵ Spies 1975ff., Bd.1. S.709.

も、巧みな語りと構成で作品に仕上げている。原話では説明が不足している箇所を補ったり、つじつまを合わせたりといったことを行っている。読む場合には煩わしく思われる繰り返しを省いていることは、本稿で指摘してきた通りである。これは本の形で出版する場合には、しばしば行われていることである。さらには、他の話と組み合わせて語りなおしたと推測される話もあるが、これは混交と呼ばれ、実際の語り手も行うことである。⁷⁶

何よりシャミの話には、終結部に特徴がみられる。「アラム 3 番」には、賢い女性が登場し、出された問いに上手に答え、サルタンと結婚するが、すぐに放り出されてしまう。しかし最後には息子を介して、再びサルタンと結ばれ、ハッピーエンドとなっている。これを下敷きにしてシャミは「静かな水——勝者が敗者になる話」という話を生み出した。ところが、シャミの女主人公は、最後にサルタンに乞われても、一人暮らしを続けることを選んでいる。

同様に、「アラム 21 番」では最後に王は娘と「結婚」をしている。しかしシャミの「魚が水を吐く」ではそれは回避される。原話の「結婚」は、昔話が終わるといふ標であり、昔話の構造上は不自然ではない。しかし、内容に目を向けるならば、背信的な王妃を処刑した後で、即座に王が（魚を介して妃の不貞を暴いた）娘と結婚するのは、必然性に乏しい。

「アラム 9 番」とそれを基にしたシャミの「花男」では、『千一夜物語』の枠物語と同様に女性不信に陥った三人の男——花男、サルタン、大臣——が自分たちの妻たちよりも不実な女性がいるか否かを確認するために旅に出る話である。原話の最後は、女性は皆不実であることを悟り三人とも家路についている。ところがシャミの話では裁判官（原話では大臣）だけは、町には帰るが妻のもとには帰らないと宣言をしている。こうして、型どおりの「結婚」（もしくは妻との復縁）で終わらないところは、現代の人間関係がそう単純でないことを象徴しているかのようである。

⁷⁶ 「優れた語り手は、知っている多くの昔話の中から、ふさわしいと思われるモチーフやツークを選び出し、それを一つの話にまとめている。つまり、先人の一人が結び付けた関連から、モチーフやツークを解き放ち、新しく結びつけるのだ。」(Lüthi 1975, S.139. リュティ 1985 年 267 頁。)

これまでに挙げた特徴は、創作昔話に近づいていることを示すが、「タクラ」以外のシャミの作品は、全体としては昔話としての味わいを壊してはいない。シャミの伝記を著した Wild が、『マルーラ村の昔話』は、創作昔話ではなく、民話の核心部分を守っていると評している⁷⁷ 通りなのである。口承の姿のままでは、読むものとしては到底受け入れられなかったであろう昔話を、シャミは現代に見事に甦らせたのである。

シャミは昔話に対して特別な思い入れがあり、他の作品にもアラブやドイツの昔話を取り入れている。⁷⁸ それらの考察は今後の課題としたい。

本稿は、人文科学研究所共同研究「物語と社会」（代表井上幸孝 2009年～2011年）の研究成果の一部である。

『アラム語の昔話』AT 番号対応表

左から『アラム語の昔話』収録番号：AT 番号（El-Shamy 2004 の話型カタログに拠る）、対応するシャミの話（筆者が作成）

- 2：AT403, AT 705A§, シャミ「冬ブドウ」
- 3：AT891, シャミ「静かな水」
- 4：AT780C
- 7：AT1675, シャミ「片目の驢馬」
- 8：AT1388A§, シャミ「けちな男」
- 9：AT1313D§, AT1384, AT1426, シャミ「花男」
- 10：AT1651, シャミ「ネズミ殺し」
- 12：AT1359A
- 14：AT510B
- 15：AT725
- 16：AT903C, AT1407, シャミ「アイーダ」
- 17：AT505A§, AT507C

⁷⁷ Wild, Bettina: Rafik Schami. (dtv portrait) München (dtv) 2006, S.91.

⁷⁸ 例えば、Milad. Von einem, der auszog, um einundzwanzig Tage satt zu werden (Carl Hanser Verlag 1997) 『ミラード。21日間満腹になるために出かけていった男の話』というタイトルは、グリムの『昔話集』第4話のタイトル Märchen von einem, der auszog, das Fürchten zu lernen 「怖がることを習いに出かけていった男の話」(KHM4)を連想させる。

- 18 : AT1539, シャミ 「魔法のかご」
19 : AT1534, シャミ 「五人の訴訟人」
20 : AT314, AT551
21 : AT517A\$, シャミ 「魚が水を吐く」
22 : AT1741, シャミ 「だまされやすい人」
24 : AT1525A
26 : AT884A
30 : AT170A
31 : AT720
32 : AT1651
33 : AT510B
34 : AT620